

第3章 全体計画の作成

3-1 全体のフロー

平成30(2018)年度には、全国で約1,372万本のコンテナ苗生産をしているものの(苗木総生産量に占める割合は約23%)、様々な品質のコンテナ苗が流通しているのが実態である。コンテナ苗は生産者の独自の経験を基に作られたており、生産方法も異なっているのが現状である。

そこで、全国各地の生産者のコンテナ苗生産の実態及びその品質について調査を行い、品質に関わる課題を抽出する。そして課題解決のための実証生産等を設計・実施し、それで生産されたコンテナ苗の試験植栽等を行い、その実証生産等の有効性等を検証することを基本とする。なお、課題解決、事業目標に向けての本事業のフローを図3-1に示す。

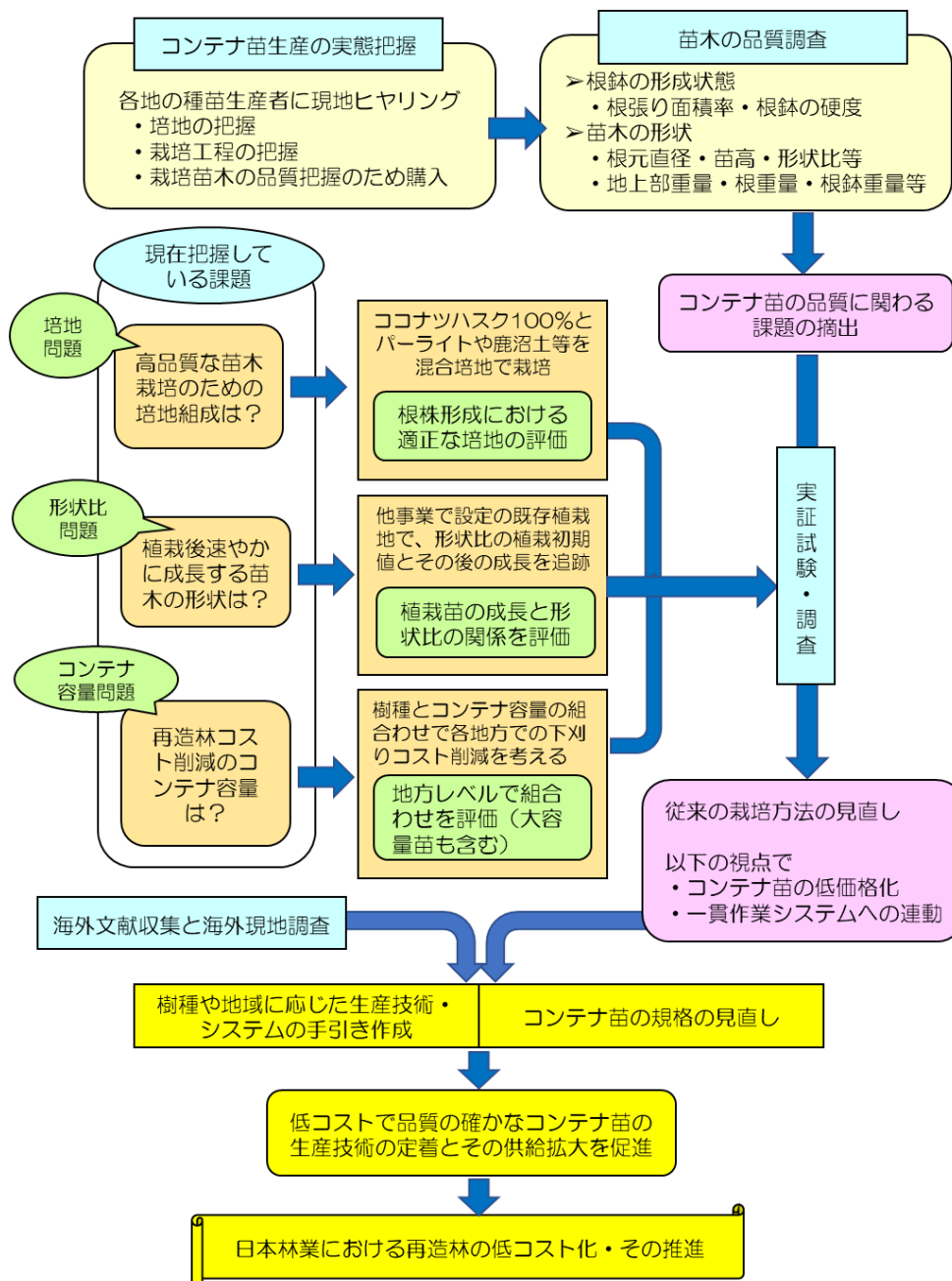


図 3-1 本事業全体のフロー

3-2 3カ年の全体計画

3カ年全体の事業実施計画については、「我が国に適合したコンテナ苗生産技術の実証・分析・評価」、「コンテナ苗生産技術に関する海外文献収集及び海外現地調査」、「最新のコンテナ苗生産技術等の整理（技術手引き等の作成等）」を前提として、林野庁及び検討委員会と協議の上で決定した（表 3-1）。

表 3-1 3カ年の全体事業計画

実施内容	1年目	2年目	3年目
(1) 検討委員会の設置・運営			
(2) 全体計画の作成			
(3) コンテナ苗生産技術等の現状分析及び評価	情報収集	分析	評価
①文献調査（国内）	収集	整理	
②コンテナ苗生産者へのヒアリング	課題抽出	整理検討	
③コンテナ苗木の品質調査	分析	分析評価	
④コンテナ苗実証生産	課題設定	分析	分析評価
	i 各地域・樹種に適した生産方法の検討（実証1）	着手	継続 分析評価
	ii 生産システムの高度化に向けた検討（実証2）	着手	継続 分析評価
(4) コンテナ苗生産技術に関する海外文献収集及び海外現地調査	欧州	米州	その他地域
(5) 最新のコンテナ苗生産技術等の整理	整理	整理検討	手引き作成

1年目（令和元年度）：

- (3) ①文献調査：これまでに発表された論文や報告等を収集し、課題と最新技術を整理する。
- (3) ②コンテナ苗生産者へのヒアリング：苗木生産者が抱える課題を洗い出し、整理する。
- (3) ③コンテナ苗木の品質調査：苗木生産者の生産した苗を分析し、流通している苗木の実態を把握する。
- (3) ④コンテナ苗実証生産：課題解決に向け、実証植栽のための試験用苗木の生産に着手する。
- (4) コンテナ苗生産技術に関する海外文献収集及び海外現地調査：
 - 海外文献を収集し、欧州地域で現地調査（最新のコンテナ苗生産技術、造林や種苗生産の現況と関連施策・培地素材等の資源状況）を行う。
- (5) 最新のコンテナ苗生産技術等の整理：最新の生産技術情報を収集・整理する。

2年目（令和2年度）：

- (3) ①文献調査：収集を継続し、課題と最新技術を整理する。
- (3) ②コンテナ苗生産者へのヒアリング：ヒアリングを継続する。課題に対して解決の糸口を掴むためのヒアリングを行う。
- (3) ③コンテナ苗木の品質調査：苗木の品質調査の継続、結果の整理。
- (3) ④コンテナ苗実証生産：課題解決に向け、実証植栽のための試験用供試苗木の生産を継続し、課題を整理する。生産実証試験の苗木を評価し、活着や成長等の実証調査を行う。
- (4) コンテナ苗生産技術に関する海外文献収集及び海外現地調査：
海外文献を収集し、米州地域で現地調査（最新のコンテナ苗生産技術、造林や種苗生産の現況と関連施策・培地素材等の資源状況）を行う。
- (5) 最新のコンテナ苗生産技術等の整理：最新の生産技術情報を収集・整理する。

3年目（令和3年度）：

- (3) ④コンテナ苗実証生産：実証生産試験の結果を整理、分析し手引きのための結果を整理する。
- (4) コンテナ苗生産技術に関する海外文献収集及び海外現地調査：
海外文献を収集し、その他の海外地域で現地調査（最新のコンテナ苗生産技術、造林や種苗生産の現況と関連施策・培地素材等の資源状況）を行う。
- (5) 最新のコンテナ苗生産技術等の整理：上記の結果を整理し、コンテナ苗生産技術・システムの手引きを作成する。コンテナ苗の規格の見直しに関わる情報を整理する。